

秋田大学での大会プログラム固まる

2009 年度（第 38 回）研究大会は、2009 年 10 月 17 日（土）～18 日（日）の両日、秋田大学で開催される予定です。例年通り、JSSEES との合同大会となります。会員の皆様の多数の参加をお願いします。

参加申し込みなど詳細は大会パンフレットをご覧ください。プログラムは以下の通りです。

10 月 17 日(土)

(会場：秋田大学 60 周年記念ホール)

10:30 代表理事、開催校挨拶

《共通論題》「グローバル金融危機に対応するロシア・東欧」

座長：吉井 昌彦（神戸大学）

10:35 第 1 報告（経済）

報告：上垣 彰（西南学院大学）

討論：溝端 佐登史（京都大学）

11:45 総会 1（40 人の理事公表・承認）

12:45 昼休み、別室にて理事会（代表理事・事務局長・副代表理事の選出）

13:50 総会 2（代表理事・事務局長・副代表理事の承認）

14:00 第 2 報告（政治）

報告：兵頭 慎治（防衛研究所）

討論：下斗米 伸夫（法政大学）

15:10 第 3 報告（社会）

報告：志摩 園子（昭和女子大学）

討論：蓮見 雄（立正大学）

16:30 第 4 報告（文化）

報告：村田 真一（上智大学）

討論：ヨコタ村上 孝之（大阪大学）

17:40 共通論題報告終了

18:00 懇親会（会場：大学会館）

* * *

10 月 18 日(日)

《自由論題報告》

9:00-11:30（ただし、第 2 分科会および第 4 分科会のみ 9:30 開始）

◆9:00-11:30 第 1 分科会（ロシア政治・安全保障：3-255 教室）

座長：袴田 茂樹（青山学院大学）

①田畑 朋子（北海道大学）「ロシアの人口問題：2006 年以降の人口動態の改善」
討論：中村 裕（秋田大学）

②松本 かおり（神戸国際大学）「ウラジオストクの社会変動：時系列比較調査の結果を中心に」
討論：堀内 賢志（早稲田大学）

③小泉 悠（未来工学研究所）「ロシアの安全保障政策と自己認識：『2020 年までの国家安全保障政策』を手掛かりに」
討論：小澤 治子（新潟国際情報大学）

④野田 岳人（群馬大学）「第二次チェチェン戦争への道程（1996～99 年）：マスコフ政権の変容とチェチェン=ロシア関係」
討論：北川 誠一（東北大学）

◆09:30-11:30 第 2 分科会（ロシア・東欧経済：3-344 教室）

座長：香川 敏幸（慶應義塾大学）

①服部 倫卓（ロシア NIS 経済研究所）「ロシアの対ウクライナ投資の国際政治経済学」
討論：金野 雄五（みずほ総合研究所）

②宮本 勝浩（関西大学）「原油価格の変動がロシア経済に与える影響」

討論：田畑 伸一郎（北海道大学）

③家本 博一（名古屋学院大学）「ポーランドにおける移民問題と国内労働市場の変化」

討論：大津 定美（大阪産業大学）

◆9:00-11:30 第3分科会（ロシア文化・文学：3-343 教室）

座長：宇多 文雄（上智大学）

①ガルワーネ・リンダ（大阪大学・大学院生）「現代ロシア文学におけるニュー・オリエンタリズム：オルガ・ラゾレワの『ロシア人の芸者の伝記』をめぐって」

討論：長谷川 章（秋田大学）

②藤井 陽一（西南学院大学・研究生）「現代ロシアにおけるヒューマニズム運動の展開について」

討論：五十嵐 徳子（天理大学）

③【JSSEES 自由論題報告】ヨコタ村上 孝之（大阪大学）「父の血は贖われたか：亡命ロシア詩人エラーギンにおける、トラウマの文化的昇華について」

討論：中村 唯史（山形大学）

④【JSSEES 自由論題報告】木村 崇（京都大学）「『アンナ・カレーニナ』における叙述者の立ち位置」

討論：浅岡 宣彦（大阪市立大学）

◆09:30-11:30 第4分科会（東欧政治：3-342 教室）

座長：羽場 久美子（青山学院大学）

①小山 洋司（新潟大学）「EU加盟を目指すクロアチアとマケドニア」

討論：柴 宜弘（東京大学）

②中井 遼（早稲田大学・大学院生）「リトアニアの政党システムの特徴とその規定要因」

討論：小森 宏美（京都大学）

③玉井 雅隆（立命館大学・研究生）「1992年 CSCE ヘルシンキ準備会合における少数民族高等弁務官成立過程」

討論：六鹿 茂夫（静岡県立大学）

11:30-12:30 JSSEES 理事会（3-150 教室）

12:30-13:30 JSSEES 総会（秋田大学 60周年記念ホール）

13:30-16:00 JSSEES シンポジウム

「スラヴ世界における西と東」

（秋田大学 60周年記念ホール）

パネラー 大津留 厚（神戸大学）

竹中 浩（大阪大学）

コメンテーター 有宗 昌子（大阪大学）

司会 阪本 秀昭（天理大学）

16:00 終了

《重要なお知らせ》

ロシア・東欧学会 2009 年度大会開催校（秋田大学）責任者の中村裕理事のメールアドレスは、hiroshin@ed.akita-u.ac.jp です。

『ロシア・東欧学会会員名簿（2008 年 8 月 1 日現在）』には、この正しいアドレスが掲載されています。ロシア・東欧学会の『Newsletter No. 18』、ホームページ、および北海道大学スラブ研究センター発行の『スラブ・ユーラシア研究者名簿』に掲載されている中村裕理事のアドレスは現在使用されていません。『Newsletter No. 18』に旧アドレスを掲載したために、報告者など多くの方が中村理事に連絡がつかず、ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。訂正いたします。

学術会議・科学技術振興機構からの学会誌の電子アーカイブ化に関する要請・応募の措置について

袴田 茂樹	代表理事
藤本 和貴夫	副代表理事
羽場 久美子	事務局長
溝端 佐登史	編集委員長

この度、学術会議・科学技術振興機構より、学術会議登録団体として、学会誌の電子アーカイブ化に関する連絡がありました。現在、世界中で飛躍的に、e-book, e-journal 化が進み、学会誌も例外ではありません。学術会議・科学技術振興機構によれば、既に平成 21 年度時点で、日本の学会の学会誌 200 誌、合計 70 万論文が、科学技術振興機構により、無料で、アップロードされており、今年もさらに飛躍的に学会誌の e-journal 化が進む予定です(科学技術振興機構、電子アーカイブ、と入れて検索。その中の左方：ジャーナルの項目を選んでいただければ、200 学会(誌)のリストを見ることができます)。現段階では 8 割が自然科学ですが、多くの人文・社会科学の学会も今年アーカイブ化を決定しており、科学技術振興機構によれば、「おそらく今年が最後の申し込みになる予定」、とのこと。

この件につき、秋の理事会には間に合いませんので急遽執行部会議を開き、学会誌の電子アーカイブ化について議論し、最終的に今回の応募に参加することを決定しました(この間、編集委員会では繰り返し議論され、当面見送りという判断でしたが、今年が学術会議と科学技術振興機構(国)による無償の電子アーカイブ化が最後の機会になる可能性が高いこともあり、また他の周辺の人文社会科学系の学会の多くが申請に踏み切っていることもあり、応募申請を行うことを決めたいと思います)。

応募申請後、審査に入り、学会誌の選定と、アップロードが決定するのは、半年から 1 年先になります。応募申請の条件として、学術会議の登録団体である、創刊年が古い、冊子を提供可能である、将来にわたって電子化公開可能で

あること、などと併せ、「著作権がクリアされている(あるいはクリアされる予定である)こと」が挙げられております。それゆえ、ロシア・東欧学会の年報の電子化に際し、ロシア・東欧学会会員の皆様に、以下の点を御了解いただきたく存じます。

1. ロシア・東欧学会の年報に掲載された論文の著作権の一部、すなわち該当論文の複製権および公衆送信権について、学術目的のため、学会は、それらを行使する権利を有すること(複製権は、著作権法第 21 条、公衆送信権等は、著作権法第 23 条)。なお、これらを行使する権利は移譲ではなく委託であり、著者自身が、自身の著作物を複製・転載することは、旧来通り可能です。
2. 電子アーカイブ化以降は、第 3 者が、学術目的のため、同様に、複製権、公衆送信権を行使する権利を有すること。
3. 上記について異論があり、ご自身ないし御遺族の論文を電子アーカイブにアップロードすることを希望されない場合には、その論文を削除して、雑誌に掲載することができます。

それゆえ、削除希望者は、ロシア・東欧学会事務局ないし編集委員会当て、2009 年 9 月 30 日までに、直接ご連絡をいただければ幸いです。雑誌論文は、原則として創刊号からですが、すべてを電子アーカイブ化するのではなく、論文の選別が可能です。また、科学技術振興機構によれば、電子アーカイブのアップロード後も、申請があれば、該当論文につき、削除することは可能、とのこと。1,2につまましては、ホームページ、ニューズレターで告知した後、最終的に、秋の大会時の理事会

ロシア・東欧学会ニュースレター

で、提出されたご意見を踏まえて議論し、削除希望の論文は削除した上、総会にかけてご了承を頂けてから、実行する形となります。

多くのご判断があるかと思いますが、情報のグローバル化と e-journal, e-book 化が進む中で、学会としてはここで電子アーカイブ化を進めることが長期的には学会や会員の皆様にとっても利益があると判断いたしました。

学術会議・科学技術振興機構は、今回ではほぼ、必要と思われる学会の国の費用による電子ジャーナル化は修了と判断する予定で、それ以降は、それぞれの学会が自己負担で、民間の企業の援助により、おのおの電子化していただくこ

とになるだろう、との意向でした。この機会にぜひ皆様のご意見を入れた上で、学会誌の電子アーカイブ化に進みたいと思います。

手続き的には、現時点では、理事会の承認、ホームページ、ニュースレターでの告知、削除希望者の要請収集、次期理事会での議論と承認、総会での議論と承認、を経て、最終判断したいと存じます。ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

これに関するご意見がございましたら、ロシア・東欧学会事務局あて、ご連絡ください。次期理事会(大会時)の貴重な資料として検討させていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

最近の理事会議事録より

《2009 年度第 1 回理事会》

- 2009 年 6 月 14 日 (日) 15:00~17:30
- 於・青山学院大学 総研ビル第 18 会議室
- 司会：藤本和貴夫 副代表理事

1. 報告事項

(1) 2009 年度大会準備報告 (中村裕・大会開催校実行委員長)

自由論題への応募状況などについて報告されるとともに、秋田への航空機・新幹線の到着時間などを考慮したスケジュール案が提示された。

(2) 共通論題報告 (吉井昌彦・大会企画委員長)

報告者・討論者の調整結果が報告された。

(3) 会誌編集委員会報告 (溝端左登史・編集委員長)

3 月に刊行された会誌第 37 号に関し、2008 年度研究大会・共通論題報告者への依頼論文のほか、10 本の投稿論文のうち 5 論文を掲載したこと、また引き続き日ソ、ナウカ・ジャパン、極東書店、紀伊国屋書店の広告を掲載したのに加え、藤原書店、彩流社の広告も掲載したことが報告された。さらに、編集委員会の任期末にあたり、編集体制ならびに編集作業について申し送り事項が示された。

(4) 事務局会務報告 (羽場久美子・事務局長)

2008 年度最終決算および 2009 年度予算 (案) 修正が報告された (表 1 参照)。また、2008 年度の会費納入状況 (2009 年 3 月末までの納入率：正会員約 84%、院生会員約 75%、法人会員 100%)、退会希望会員 (5 名、うち 1 名は逝去

者)、再入会会員 (1 名)、会費納入による退会撤回者 (1 名) および入会申込者 (6 名：表 2 参照) について報告があった。会誌広告による収入増、会費納入率の大幅回復などが指摘された。

(5) その他

上野俊彦理事より、同理事とあわせ山下明日香氏が学会ホームページ担当者となったこと、ホームページへの掲載希望記事があれば引き続き上野理事に連絡してほしい、と報告された。

羽場事務局長より、会誌第 37 号にロシア・東欧学会歴代理事名簿と川端香男里元代表理事へのインタビューを掲載したことが報告された。これについて、川端元代表理事ならびに香川敏幸理事より多大な支援をいただいたことが申し添えられた。

2. 審議・承認事項

(1) 2009 年度研究大会スケジュールについて (羽場事務局長)

今年は、理事会改選の年に当たるため、大会前日の 10 月 16 日 (金) に、選挙による次期理事当選者会合を行い、残りの理事の選出を行うことが報告された。また新理事人事に伴い、総会は 17 日 (土) に 2 度行うことが確認され、それに基づき、スケジュールが若干タイトになることが報告・承認された。

(2) 2009 年度研究大会自由論題について (中村開催校実行委員長)

理事会当日までご応募のあった自由論題報告希

表 1 2008 年度決算および 2009 年度予算

	2008 年度予算	2008 年度決算	2009 年度予算
収入の部			
前年度繰越金	4,979,166	4,979,166	5,660,010
会費 (注 1)	3,070,000	3,860,000	3,090,000
個人	3,010,000	3,740,000	3,030,000
正会員	2,760,000	3,433,000	2,820,000
院生会員	250,000	307,000	210,000
団体	60,000	120,000	60,000
維持会費	20,000	0	20,000
寄付	50,000	31,254	20,000
利息	1,500	1,203	1,500
雑収入	20,000	125,000	80,000
収入小計	3,161,500	4,017,457	3,211,500
総計	8,140,666	8,996,623	8,871,510
支出の部			
大会費	300,000	400,000	300,000
年報発行費	1,300,000	1,238,107	1,300,000
年報印刷費	1,200,000	1,155,000	1,200,000
ニューズレター印刷費	100,000	83,107	100,000
事業費 (注 2)	40,000	60,000	40,000
学術会議費用	0	0	0
事務局費 (事務, 謝礼)	400,000	399,520	400,000
事務用品・コピー代	50,000	33,813	50,000
会議費補助	700,000	464,906	700,000
選挙管理費	0	0	100,000
会員名簿印刷代	50,000	92,820	100,000
通信・発送費	200,000	156,493	200,000
利息・手数料料金 (注 3)	40,000	40,954	40,000
予備費 (注 4)	500,000	450,000	500,000
支出小計	3,580,000	3,336,613	3,730,000
繰越金	4,560,666	5,660,010	5,141,510
総計	8,140,666	8,996,623	8,871,510

(注 1) 2009 年度予算の会費額は、2008 年度の納入状況より、会員総数 424 名 (2009 年 2 月現在) のうち、正会員 (353 名) 80%、院生会員 (60 名) 70%、法人会員 (4 団体) 75%、名誉会員 (7 名)、で試算

(注 2) 事業費は、JCREES (日本ロシア・東欧研究連絡協議会) および地域連絡協議会の負担金。

(注 3) 「利息・手数料」は、事務局費に含まれる銀行手数料を郵便振替払込料金と合わせたもの。

(注 4) 予備費は、大会開催に施設使用料が必要な場合の支出。

望者に対する討論者の選出について意見が交わされた。また、自由論題応募の期限を 7 月 15 日まで延長し、引き続き報告希望者を募ることとした。

(3) 2008 年度決算および 2009 年度予算について、審議のうえ承認された。

(4) 新入会員について、承認された。

(5) 国際中・東欧研究学会 (ICCEES) 2015 年大会の東京開催の可能性について (松里公孝理事)

松里理事 (ICCEES 日本代表) より、ICCEES

理事会にて、2015 年の大会を日本で開催する案について報告があった。が、理事会では、JCREES、北海道大学スラブ研究センター、ロシア・東欧学会など学会がこれを行うことには無理があること、①資金、②組織の問題が解決された場合にのみ、学会としてモラル・サポートを行うという認識であり、現状では学会としては支援できないという方向でまとまった。

表 2 新入会員 (2009 年 6 月 14 日までの申請・理事会承認分)

氏名	所属	専攻	推薦者	
高野 一郎	キール大学 (大学院生)	南東欧 (黒海北岸含む) の安全保障とロシアの影響	袴田 茂樹	羽場 久美子
月村 太郎	同志社大学	国際政治史	羽場 久美子	吉井 昌彦
萩森 正尊	早稲田大学 (大学院生)	比較政治学	伊東 孝之	久保 慶一
オリガ・ホメンコ	独立研究者	戦後社会史, 広告史	袴田 茂樹	羽場 久美子
ガルワーネ・リンダ	大阪大学 (大学院生)	比較文学	五十嵐 徳子	ヨコタ村上 孝之
岡部 芳彦	神戸学院大学	経済史・経営史	藤本 和貴夫	溝端 佐登史

(注) 推薦者 2 名の氏名は五十音順。

会誌投稿希望者, 9 月 15 日 までにご連絡を!

会誌第 38 号 (2009 年版) への, 論文, 研究ノート, 書評, 資料紹介の原稿を募集しています。まず, ご投稿希望を受け付けます (締め切りは 9 月 15 日)。詳しいことにつきましては, 会誌編集委員会までお問い合わせください。

【投稿申し込み先】

ロシア・東欧学会会誌編集委員会
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学経済研究所
溝端研究室気付
Tel: 075-753-7144, Fax: 075-753-7148
e-mail: mizobata@kier.kyoto-u.ac.jp

なお, 申し込み受理後, 原稿提出の締め切りは 11 月末日になりますが, 原稿の送付先は 10 月の総会以降に組織される新しい編集委員会となりますのでご注意ください。

投稿規定, 執筆要領につきましては, ロシア・東欧学会ホームページの会則・諸規定のページないしは会誌巻末の「投稿規定・執筆要領」をご覧ください。

(編集委員会委員長 溝端佐登史)

《前号の訂正》ニューズレター第 18 号 5 頁の「表 1 新入会員」のなかで中井遼会員 (早稲田大学大学院生) の専攻が誤って記載されていました。正しくは「比較政治学」です。お詫びをするとともに, 訂正いたします。

《事務局より》

◆ウェブへの学会誌掲載論文の削除を希望される方, 9 月 30 日までに事務局までご連絡ください! (このニューズレター, 3~4 頁の記事を参照のこと)

◆学術会議登録団体として, 雑誌のアーカイブ化に踏み切る方向となりました。ご自身の論文の掲載を望まれない方, 御意見が御有りの方は, ご連絡ください。秋田大学でのロシア・東欧学会・JSSEES の合同大会も充実した内容となりました。世界金融危機以降のロシア・東欧の現状と行方を議論する契機になればと存じます。

大会では学会の役員改選となります。会員の皆様にはこの間ご協力いただきまして誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。

(羽場久美子)

◆今号でニューズレター編集担当は最後となります。3 年間, ご協力いただきありがとうございました。

(湯浅 剛)

ロシア・東欧学会ニューズレター第 19 号 (2009 年 9 月発行)

《発行：学会事務局》

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学国際政治経済学部
羽場久美子研究室気付

e-mail: jarees_office@yahoo.co.jp

URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/roto/index.html>

ニューズレター編集担当: 湯浅 剛

E-mail: ty@nids.go.jp